幌加内町
第７次総合振興計画

人に自然にやさしい故郷づくり

～夢と誇りを持って生きいきと暮らすまち～

平成28年3月

幌加内町
第７次総合振興計画

人に自然にやさしい故郷づくり

～夢と誇りを持って生きいきと暮らすまち～

町長挨拶

幌加内町長
細 川 雅 弘

明治 30 年に国有未開地の貸付を受け、開拓の鍬がおろされたことから幌加内町が築かれました。

以来、幌加内町は、幾多の困難を乗り越え、これまで町を築き上げてきた先人と、厳しくも豊かな大地に支えられてきました。

今、地方を取り巻く環境は、地方消滅、人口減少といったことから地方創生が唱えられていますが、これからの社会情勢の変化に対応していくためにも、ふるさと「ほろかない」に住んで頑張っている町民の方が、これからも一日でも長く安全で安心して住み続けられるまちづくりを目指すとともに「幌加内そば」や「朱鞠内湖」など、全国あるいは世界に発信できる大きな資源を活かして活力あるまちづくりを進めるため、この「幌加内町第７次総合振興計画」は今後 10 年間のまちづくりの指針として、広く町民の皆様のご意見を賜りながら策定したものです。

本計画の策定に際し、貴重なご意見を賜りました町民の皆様や、慎重に審議いただきました審議会委員並びに町議会議員の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、国、道並びに関係機関のご支援とご指導を心よりお願い申し上げる次第であります。

目　次

第１編　序　論

第１章　第７次総合振興計画について …… 2
- １－１　計画策定の目的 …… 2
- １－２　計画策定の構成と期間 …… 3
- １－３　計画の推進にあたって …… 5

第２章　まちのようすと今後のまちづくりの課題 …… 6
- ２－１　まちのようす …… 6
- ２－２　住民や中・高生などの声 …… 12
- ２－３　時代の潮流とまちの基本的な対応方向 …… 17
- ２－４　第６次総合振興計画の成果 …… 19
- ２－５　これからのまちづくりの課題 …… 21

第２編　基本構想

第１章　基本理念・将来像 …… 24
- １－１　基本理念 …… 24
- １－２　将来像 …… 24
- １－３　将来人口の推計 …… 25

第２章　施策の体系 …… 26

第３章　施策の大綱 …… 28
- ３－１　自然と共生したまち …… 28
- ３－２　生きいきと健やかに暮らすまち …… 28
- ３－３　住みやすくにぎわいと安心のあるまち …… 29
- ３－４　誇りと活力のあるまち …… 30
- ３－５　夢と豊かな心を育む学びのあるまち …… 30
- ３－６　みんなで築き合うまち …… 31

第３編　基本計画

第１章　自然と共生したまち …… 34
- １－１　自然と共生したふるさとづくり …… 34

第２章　生きいきと健やかに暮らすまち …… 37
- ２－１　生涯健康に暮らせる保健・医療体制の充実 …… 37
- ２－２　地域ぐるみで支え合う福祉社会の形成 …… 39

第３章　住みやすくにぎわいと安心のあるまち …… **44**
３－１　にぎわいと交流を生み出すネットワークの形成 …… 44
３－２　暮らしたくなる生活環境の整備・充実 …… 48
３－３　安全で安心な暮らしの確保 …… 52
第４章　誇りと活力のあるまち …… **56**
４－１　基幹産業としての第一次産業の振興 …… 56
４－２　地域に根付いた商業・地域産業の展開 …… 59
４－３　活性化を促す観光・交流の促進 …… 62
第５章　夢と豊かな心を育む学びのあるまち …… **66**
５－１　未来を拓く教育環境の充実 …… 66
５－２　文化創造とスポーツ・レクリエーション活動の展開 …… 68
第６章　みんなで築き合うまち …… **70**
６－１　自ら創るまちづくりの推進 …… 70
６－２　効果的な行財政運営体制の確立 …… 73

資料編

幌加内町第７次総合振興計画策定審議会設置規則 …… 76
第７次総合振興計画策定審議会（委員変更一覧） …… 77
幌加内町第７次総合振興計画策定推進体制フロー …… 78
幌加内町第７次総合振興計画策定の経過 …… 79
幌加内町第７次総合振興計画策定審議会における審議終了について …… 81

第１編
序　論

第１編

序論

第１章　第７次総合振興計画について

１－１　計画策定の目的

本町では、平成 26 年度を目標年次とする「幌加内町第６次総合振興計画」を平成 17 年３月に策定し、これまでまちづくりを進めてきました。幌加内町第６次総合振興計画で掲げた基本理念及び将来像は次のものです。

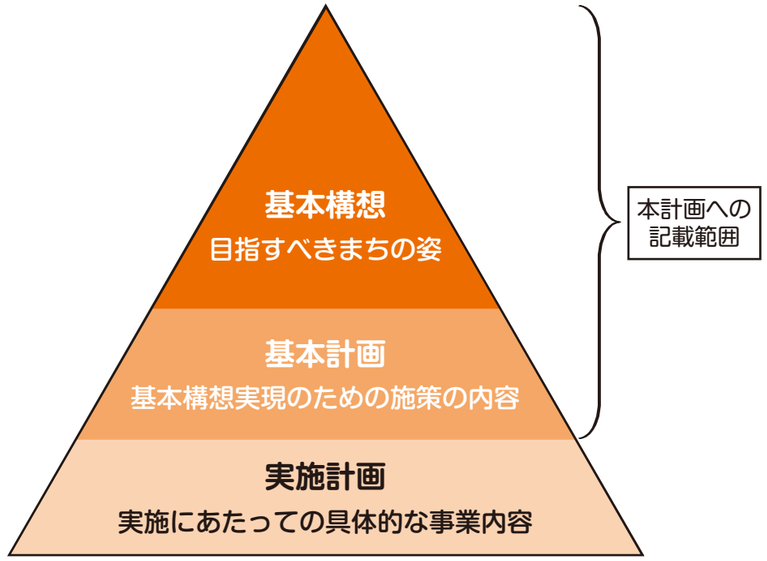
基本理念：人に自然にやさしい故郷づくり
将 来 像：元気な人、豊かな大地、ともに歩む協働のまち

本町は“３つの日本一がある町”という特色のもと、そばのみならず、住民生活に関する基盤整備や観光展開を図ってきましたが、依然人口減少は続いています。
我が国も“人口減少社会への突入”という新たな局面を迎えるとともに、地域創生ということが国づくりの大きなテーマとして掲げられています。

このような内外の社会・経済環境の変化を踏まえ、町民が一日でも長く安全で安心してこの町に住み続けられるまちづくりを進めるため、新たに今後 10 年間を見通したまちづくりの指針として「幌加内町第７次総合振興計画」を策定します。

１－２　計画策定の構成と期間

総合振興計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の３部門から構成されます。
実施計画は、財源なども含め毎年見直していくものであり、本計画に掲載されるのは「基本構想」と「基本計画」となります。



基本構想

行政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるもので、本町の長期的視点からの将来像及びそれを達成するための基本目標を明らかにするものです。
「基本構想」の計画期間は、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間とします。

基本計画

「基本構想」に掲げる将来像を実現するため、本町が今後 10 年間で取り組むべき主要な施策について、その展開の考え方を示すものです。
「基本計画」は、長期的視点に立った「基本構想」の実現を中期的視点から具体化するため、計画期間については、平成 27 年度から平成 31 年度までの５年間を「前期基本計画」、平成 32 年度から平成 36 年度までの５年間を「後期基本計画」とします。

実施計画

「基本計画」に示された施策の具体的な実施内容を明らかにし、本町における毎年度の予算編成･組織機構・人事計画などの運営方針となるものです。

「基本計画」に掲げられた事業の実効性を担保するため、財政計画との整合を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。

各年度の予算編成の指針として３ヵ年の実施計画を策定し、ローリング方式により事業の推進を図ります。ただし、社会経済状況の変化や計画の進捗状況を踏まえ、適宜見直しを行うこととします。

《計画期間》

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	7年次	8年次	9年次	10年次
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
基　本　構　想									
基　本　計　画									
前期基本計画					後期基本計画				
第1次実施計画					第1次実施計画				
第2次実施計画					第2次実施計画				
第3次実施計画					以降、毎年毎ローリング				
前期実績 後期計画									

１－３　計画の推進にあたって

本計画は、大きくは次の４つの視点からの計画立案となっています。

① 近年の町の動き
② 住民、学生、事業所等からの町づくりに対するニーズの拾い上げ
③ 第６次総合振興計画の進捗や成果の点検
④ これからの時代状況を踏まえた町として取り組むべき課題

本計画は、基本構想でこれから10年間のビジョン（基本的な方向）を示し、基本計画では当面５ヶ年を前期基本計画として、施策の展開の基本的な考え方を示しています。

今後、この計画に基づき、実施計画において、予算との調整も含めた具体的な事業計画を毎年たてて参ります。

また、平成27年度策定の国が示す「まち･ひと･しごと創生総合戦略」に基づく、「幌加内町まち･ひと・しごと創生総合戦略」は、本計画の考えを踏まえた重点的な取り組みを進めていくこととなります。加えて、総合戦略においては、2020年の重要業績評価指標（ＫＰＩ*1）を示したところであり、本計画では、参考値として基本構想・施策の体系において表示しました。

＊１：ＫＰＩとは：Key Performance Indicator 略。政策ごとの達成すべき成果目標。

第２章　まちのようすと今後のまちづくりの課題

２－１　まちのようす

本町の特性としては、次のことが挙げられます。

【位置的特性：道北の天塩山地を背景に、上川管内の西部に位置する】

○　上川管内の西部に位置し、南北に細長く四方を山に囲まれ、東には名寄、士別の２市、南には旭川、深川の２市、その他周りを７町に隣接した位置にあります。

【自然・土地条件：山に囲まれた寒冷地である】

○　町の中央を貫流する雨竜川は、ピッシリ山に源を発し、石狩川に合流しています。この流域には大小の盆地が形成され、肥沃な農耕地、草木地とともに、母子里・朱鞠内・添牛内・政和・幌加内の５つの市街地が形成されています。また、北部に日本最大の広さを誇る人造湖の朱鞠内湖があります。

○　ここ 30 年間の気象状況をみると、年間平均気温は 5.5℃程度、年降水量 1,467.4mm となっています（昭和 56 年～平成 22 年の 30 年間の平均値：気象庁データ）。

昭和 53 年２月 17 日には、母子里地区の当時北海道大学演習林作業所で日本最寒温度（-41.2℃）を記録しています。

● 幌加内町の位置

【歴史的背景：入植～そばのまちへ】

○　幌加内は、明治 30 年に国有未開地の貸付けを受け、鷹泊から雨竜川を遡り開拓の鍬がおろされたことが起源となっています。

○　大正７年（1918 年）に雨竜郡上北竜村（現在沼田町）から分村し、雨竜郡幌加内村となり、大正 12 年（1923 年）に旧町村制が施行され幌加内村となり、さらに昭和 34 年（1959 年）町制施行により、幌加内町となっています。

○　減反政策により転作が進み、昭和 55 年（1980 年）には、ソバの作付面積が日本一となっています。

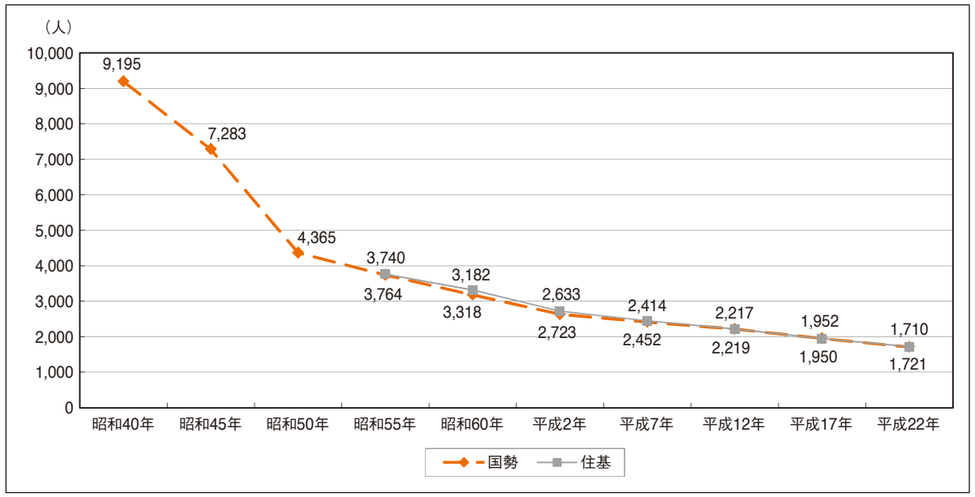
○　旧空知支庁の管轄でしたが、隣接する上川管内との結びつきが強いことから、平成 22 年（2010 年）４月１日に施行された北海道総合振興局及び振興局設置条例において上川総合振興局に管轄が移行されました。

【人口の動きと見通し：減少傾向は依然として続いているが、近年は社会動態で増加もみられる】

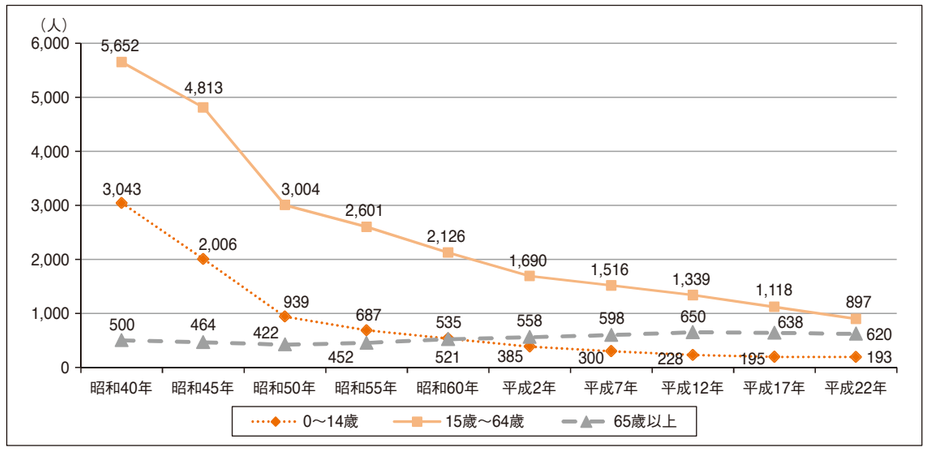
○　人口は年々減少傾向にあり、平成 22 年（国勢調査）では 1,710 人となっています。

○　自然動態は一貫して減少傾向で少子高齢化が急速に進んでいますが、近年における社会動態では増加もみられます。

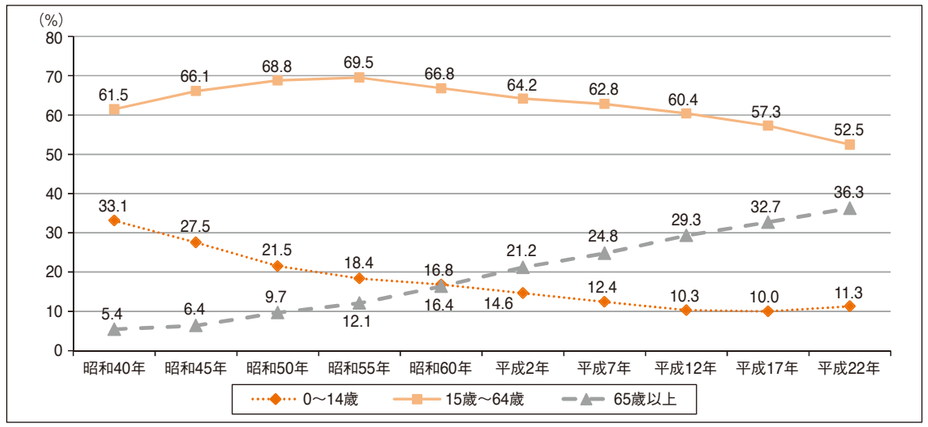
● 人口の推移（国勢調査・住民基本台帳）



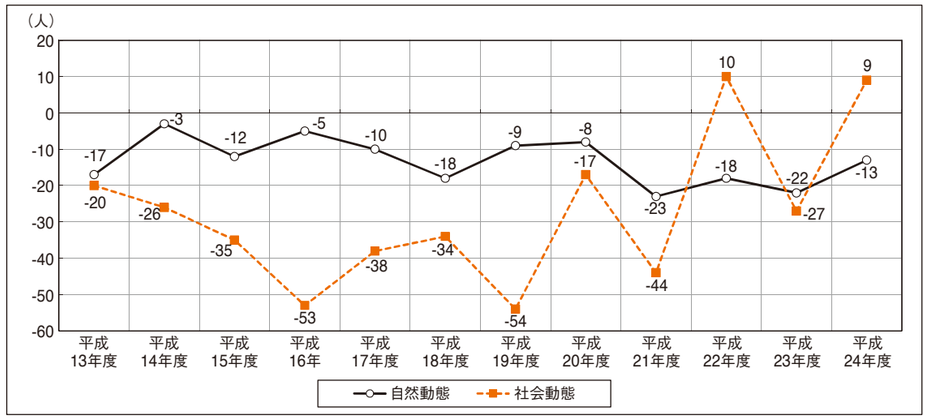
● 人口の推移（国勢調査・住民基本台帳）



● 年齢３区分別の人口の動き（国勢調査）



● 人口動態の動き（住民基本台帳）



【産業の特性：基幹産業は農業で作付面積日本一のソバ及び水稲の生産が中心】

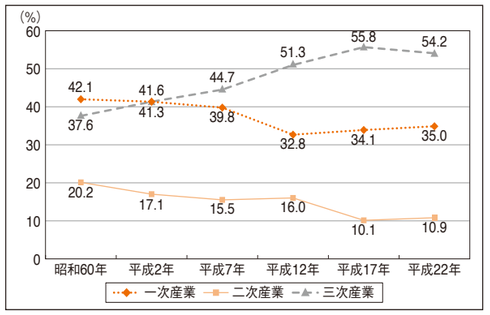
○　産業就業人口比率を平成 22 年（国勢調査）でみると、第三次産業は 54%、次いで第一次産業が 35%、第二次産業が 10%強となっています。

○　第一次産業の就業人口比率は平成 12 年には 32.8%まで減少しましたが、近年は若干回復傾向にあり、日本最大の作付面積・生産量のソバをはじめとし、水稲、小麦、大豆、畜産が中心に生産されています。

○　観光面では、道立自然公園朱鞠内湖、温泉、スキー場、登山などがありますが、観光客は 16 ～ 17 万人程度で推移しており、産業としては脆弱です。

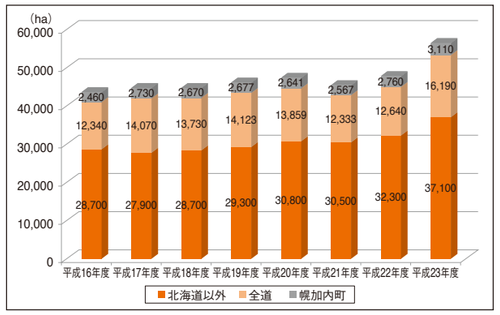
● 産業就業別人口の構成比

資料：国勢調査



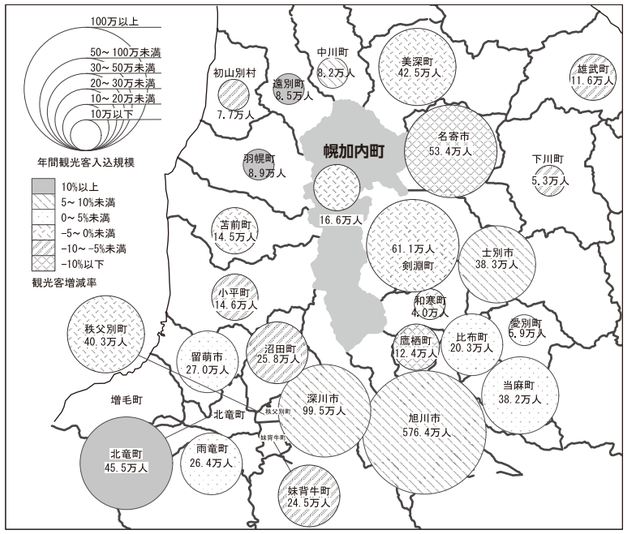
● ソバの作付け面積

資料：農林水産統計
注）平成 19 年～平成 21 年は、幌加内町独自のデータ



● 観光入り込み客数

資料：北海道観光統計（平成 24 年度）



【生活圏の広がり：深川市・旭川市とのつながりが強く、その他士別市・名寄市とのつながりもみられる】

○　深川市、旭川市とは約 45㎞（道路距離）の距離にあり、日常生活や通勤などのつながりを形成しています。

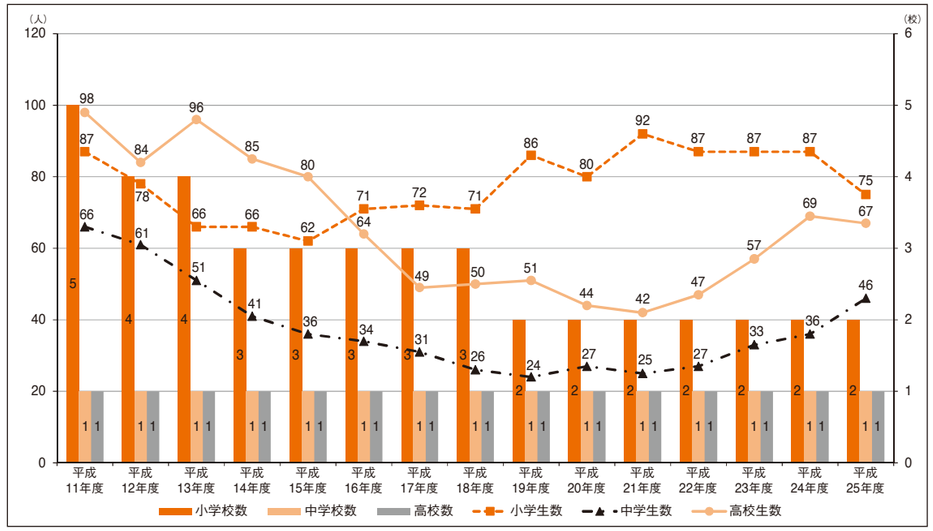
○　通勤・通学の出入りをみると（平成 22 年国勢調査）、幌加内町から外へ出ている人は深川市へ 23 人、旭川市へ 8 人、逆に幌加内町に入ってきている人は旭川市から 32 人、深川市から 20 人、士別市から 15 人、名寄市から 11 人となっています。

【教育：北海道幌加内高等学校には、全国唯一のそば科目がある】

○　高校は町内で１校の北海道幌加内高等学校があり、全国唯一のそば授業がある昼間定時制の農業科高校ですが、全日制と同じカリキュラムを実施し、道内のみならず道外からも生徒が入学し町外出身者が９割を占めています。

○　小学校は近年統合化され２校となり、中学校は１校となっています。

● 学校の数と児童・生徒数



資料：学校基本調査

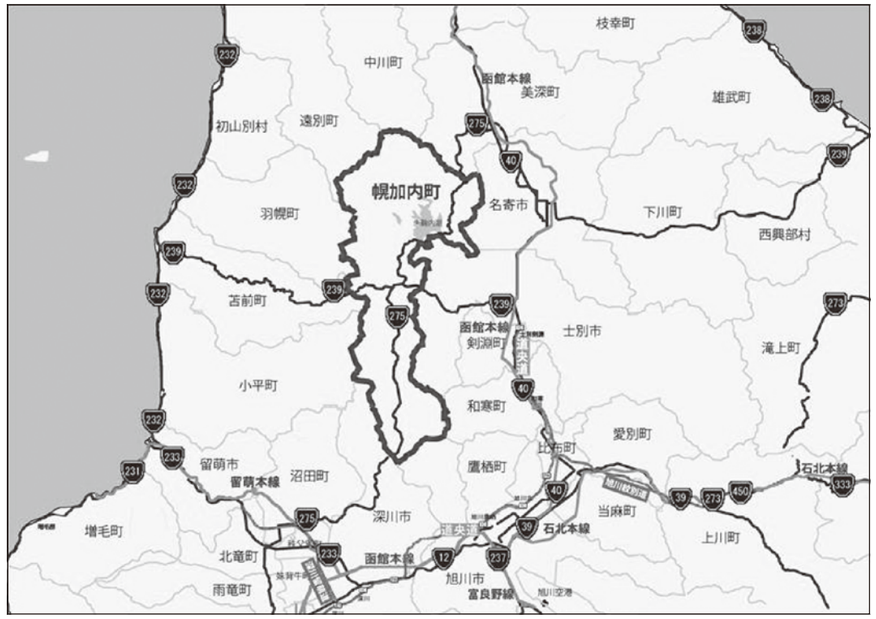
【交通条件：町を国道 275 号線が南北に縦貫し、国道 239 号線が東西に横断している】

○　深川市と美深町をつなぐ国道 275 号線が南北に縦貫し、士別市と苫前町をつなぐ国道 239 号線が東西に横断しています。

○　鉄道はありませんが、深川駅と名寄駅まで定期バスが運行されています。

○　現在、旭川までの公共交通路の構築に向けた試験運行が実施されています。

● 主な道路網

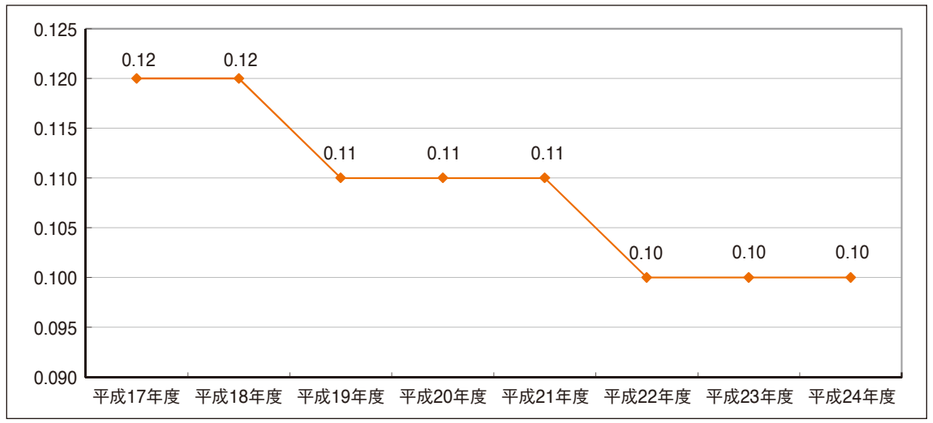


【財政状況：行政活動に必要な財源確保が課題】

○　町の標準財政規模は約 27.6 億円規模（平成 24 年度　市町村財政状況）で人口減と相まってやや減少傾向ではありますが近年は微増しています。

○　財政力指数は平成 24 年度 0.10 と非常に低くなっていますが、これまでの行財政改革の成果により、経常収支比率は 70.6%となっており、健全な財政運営となっています。しかし、財政力指数が低いことから行政活動に必要な財源をどう確保するかが課題となります。

● 財政力指数の推移（資料：市町村別決算状況調）



２－２　住民や中・高生などの声

本計画策定にあたり、全世帯及び中・高生全員にアンケート調査を実施するとともに、事業所アンケート調査及び地区懇談会を実施し、今後のまちづくりに関する問題点や提案を求めました。

①　住民アンケート調査の概要

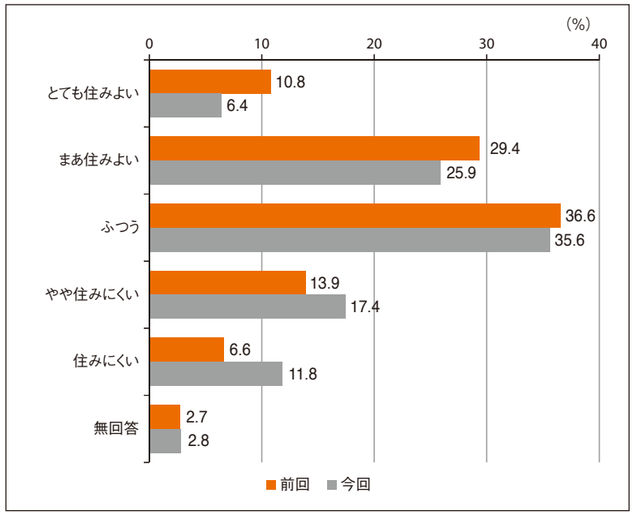
本計画策定にあたり、全世帯を対象にまちづくりに関するアンケート調査を実施しました（回収率は 50.3%：397 票）。詳細は「幌加内町第７次総合振興計画策定に関する住民、中・高生アンケート調査結果報告書」（平成 26 年３月）に掲載されていますが、主な内容は以下の通りです。

■まちの住みやすさなどについての評価

○　約７割が、「景観が美しく、自然が豊か」と感じています。

○　町の住みやすさについては、「住みよい派」（「とても住みよい」＋「まあ住みよい」）は 32.3%で、「ふつう」が 35.6%であり、約３割が「住みにくい派」（「やや住みにくい」＋「住みにくい」）（29.2%）となっています。

○　定住意向については、58.2%の人が住み続けたいという意向をもっていますが、移りたい人も 30%を超えており、その理由としては、買い物、交通の不便さや医療福祉面の不安、自然の厳しさとなっています。

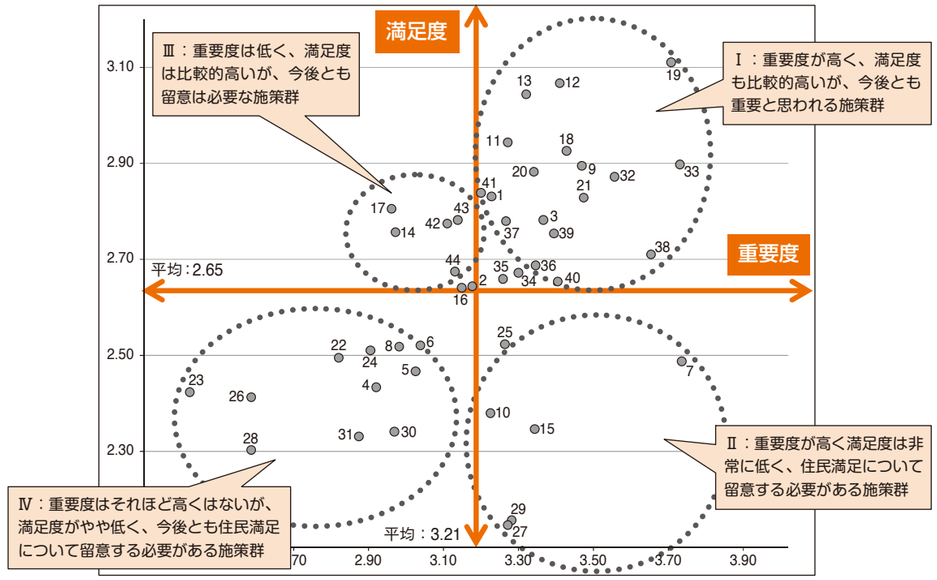


注）「前回」とは前回の計画策定時に実施した（平成 15 年９月）の結果を意味します。

■第６次総合振興計画の施策に対する評価

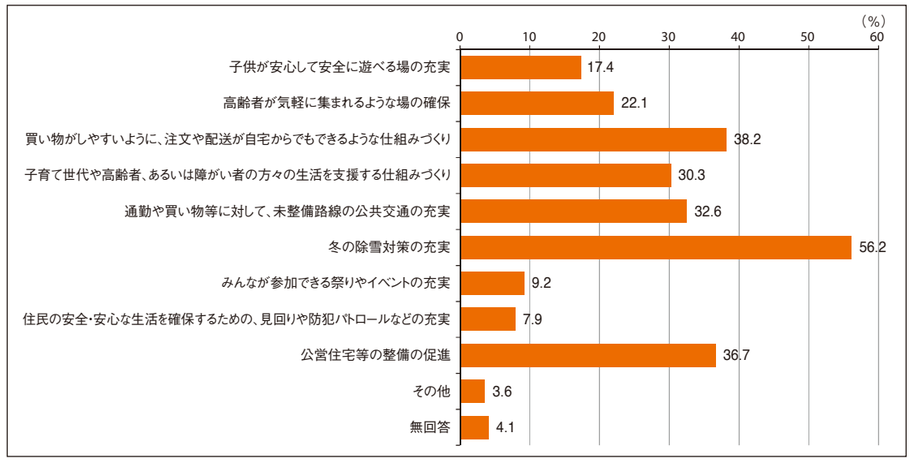
重要な施策であるが、住民の満足度が低い施策（Ⅱに該当するもの）は、次のものが挙げられます。

◇雪対策と活用（７）　　◇交通網の充実（10）
◇住宅環境の整備（15）　　◇観光の振興（25）
◇商業流通の活性化（27）　　◇雇用対策・地域の教育力の向上（29）



■今後優先的に取り組むべき事項

「冬の雪対策」が最も多く、次いで「買い物の注文や配送が自宅からできるような仕組みづくり」、「公営住宅等の整備」が主なものとなっています。



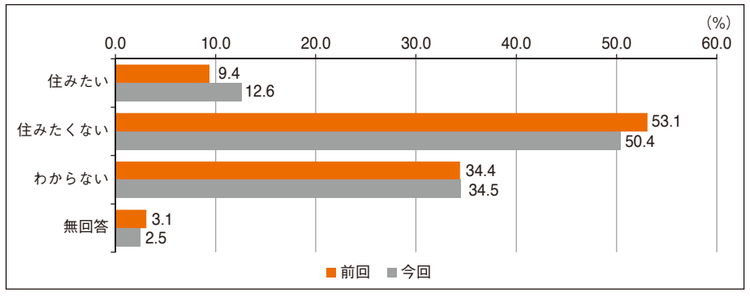
②　中・高生アンケート調査の概要

町内の中学生・高校生 132 人に調査をし、119 票（回収率 90.2%）の回答の主な内容は以下の通りです。

■定住意向

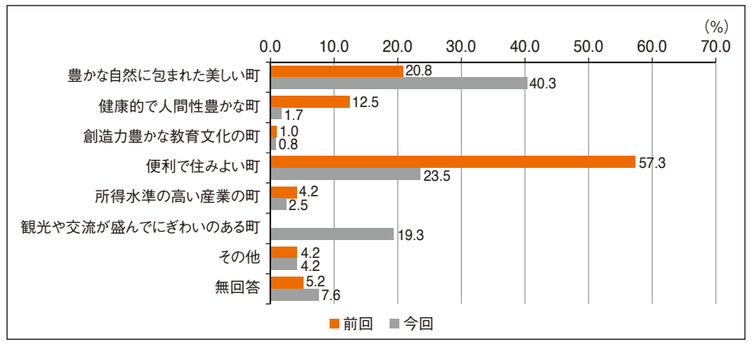
○　定住意向については、「住みたい」が 12.6%に対し、「住みたくない」が 50.4%となっていて特に高校生にその割合が高くなっています。

○　住みたくない理由としては「進学」と「自分の職業を活かせる場がない」という“進学と就職”の問題が大きい要因となっています。



■町に望む将来像

○　「豊かな自然に包まれた美しい町」（40.3%）が最も多く、次いで「便利で住みよい町」（23.5%）、「観光や交流が盛んな町」（19.3%）となっています。



■自由意見にみる町のいいところや悪いところ

まちのいいところ	• そばの自慢と自然環境のすばらしさが最も多くなっている。 • 人が親切で、みんなと仲良くなれる。 • 図書館で無料で映画が見れる。
まちの不満点	• 店、コンビニが欲しいことと旭川方面の直通バスが欲しいとの意見が多くなっている。
改善して欲しい点	• 幌加内町に望むこととしては、イベントなど人と触れる機会を作って欲しいという意見がだされている。

③　事業所アンケート調査の概要

町内の事業所・団体にアンケートをお願いし、29 事業所・団体から得られた主な回答は、以下の通りです。

現在の状況・問題点	• 人口減少、各部門での従業者・後継者の不足、地域内消費力低下などによる経済力の低下が指摘されている。 • 各団体の高齢化や会員確保の難しさの指摘もある。
今後の対策	• ソバを中心とした農業が基本であるが、今後持続的な農業展開のために新たな人材の育成や農業生産体制の検討も必要で、６次産業化による商工業・観光を絡めた対策が必要。 • 過疎化抑止のために、特に若い人の移住・定住対策が重要という意見も挙げられている。
まちを元気にするための方策	• ソバ生産日本一という特性や各種資源を活かした観光振興を図るべきという意見が多い。 • 基幹産業である農業の経営体制の強化が不可欠であり、この状況を打破するには住民意識の転換も必要で、十分な議論の場も必要。

④　地区懇談会などからの課題や解決策の提案

（表中の●は課題、○は提案として挙げられたもの）

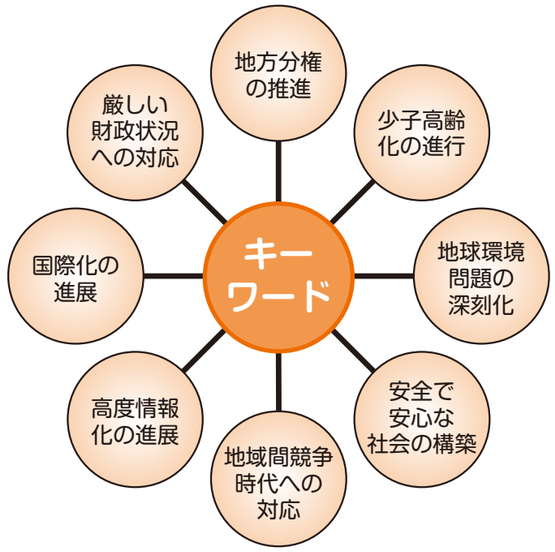
雪対策	●除雪の人手が少ない ●屋根の雪下ろしが大変 ●除雪の依頼先がない ○組合組織を作る ○支援員や企業との連携 ○道路幅の拡幅
住宅環境	●住宅問題として若者対策、高齢者対策、空家対策 ○公営住宅の整備 ○ちょっと暮らし住宅 ○空家のリフォーム
医療・介護・保健・福祉	●救急車の到着が遅い ●介護保険料の負担が大きい ○病院の維持・存続・改善 ○名寄・士別の病院に行ける仕組み ○高齢者居住施設増設 ○子ども対策の充実
商業	●買い物問題 ●ガソリンの補給困難 ○バスの運行 ○ガソリンスタンドの設置

商業	○移動スーパーの巡回 ○コンビニの誘致か町営コンビニ
教育・文化	●中学校の通学問題 ○中学校の校区変更
交通	●バス運行に対する問題 ●旭川方面の直通バスが欲しい ○住民のバス利用の促進 ○地域バスの導入 ○過疎地運送体制の充実
観光	●観光の目玉がない ○楽しく安心して観光できる環境の整備 ○多い雪を活かしたイベント ○道の駅の有効活用
農林漁業	●農業の担い手の問題 ●ソバ依存体質の不安 ○後継者対策 ○新規就農対策 ○鹿や熊を「害」ではなく、活用する逆手の発想 ○農業活性化センター「アグリ 21」の施設運営改善
防災	●救急車などの対応・避難体制の不安 ●地震等災害によるダムの決壊の不安 ○防災意識の高揚 ○避難訓練の実施
その他	●人口減少による自治区制度のあり方の再検討 ●臨時雇用が多く若者が定住しない ○コンパクトシティ※1 など新たなまちづくりの発想が必要

＊１：コンパクトシティとは：中心部に行政、商業、住宅などの機能を集中させた都市形態。徒歩圏内に集約させた小規模なまちづくりのあり方。

２－３　時代の潮流とまちの基本的な対応方向

時代の潮流のキーワードとしては、次のものが挙げられます。



このような流れに対し、本町での主な対応方向は次のものとなります。

■地方分権の推進

国に頼るのではなく、地域の自立と自律が求められる今日、幌加内町住民の“自治力”が問われる時代となり、行政・住民の役割分担と主体性のもと、地域ぐるみでの取り組みがさらに必要となります。

■少子高齢化の進行

我が国全体の傾向として当面は少子高齢化が続き、本町においてもさらにその傾向は増すものと思われ、とりわけ高齢者の割合がかなり高くなることが予想されます。今後は、元気な高齢者に積極的に社会参加してもらう仕組みづくりとともに、転入・移住策も重要となります。

■地球環境問題の深刻化

環境問題は地球レベルでの大きなテーマとなっていますが、幌加内町は豊かな自然環境を有したまちです。貴重な自然環境を守るとともに、自然を楽しみ、自然と共生する我が国を代表するようなモデル地区的な展開が求められます。

■安全で安心な社会の構築

平成 23 年の東日本大震災、それにともなう原子力発電所の事故は、国民の安全・安心に対する意識を大きく変えました。本町は概して災害は少ない地域ではありますが、近年の局地的な気象の異常さは本町にも水害や土砂災害などの危険性をもたらすものであります。住んでいる人の安全・

安心を確保することは基本であり、高齢者や障がい者も含め、誰もが安心して暮らせるまちづくりや、安全なまちとしてのアピールは移住や定住の大きな条件となるものです。

■地域間競争時代への対応

各地で人口減少が起る中、いかに地域に住民を留めるか、あるいは移住者を吸引できるかという視点からも地域間競争はさらに高まることが予想されます。個性的で活力あるまちづくりを進めるためには、より本町の魅力を高めていく必要がありますが、一方では、住民の生活圏の広がりなども含め、深川市や旭川市、名寄市、士別市などの周辺地域との連携も重要な視点となります。

■高度情報化の進展

情報化の進展は、今や世界中にネットワークを張り巡らせ、いつでも・どこでも様々なコミュニケーションを成立させる時代となっています。本町においてもこの情報化により、立地の不利性を克服する道具として活用していくことが求められます。

また、人とひととのつながりもより大切となり、見守りなど、地域内で相互に支えあった安心のある暮らしを創り上げることも重要となります。

■国際化の進展

情報化の進展のみならず、人やものの世界的な動きはますます盛んになっています。町は国際交流が活発とは言えない状況ではありますが、今後 TPP＊1 などの動きを含め国際化はさらに進むことが想定され、産品の海外販売を含め国際交流の機会を増やすことが求められます。

■厳しい財政状況への対応

長引く経済不況は、地方の経済や、市町村の財政状況にも厳しい影響を与えています。本町は行財政改革により一定の成果をあげています。しかしながら限られた財源であり、今後とも住民の合意を得ながら効率的・効果的な行財政運営が必要であるとともに、重点的・戦略的な“集中と選択”の投資の観点も重要となります。

＊1：TPP とは：Trans-Pacific Partnership の略で、環太平洋戦略的経済連携協定のこと。自由化レベルが高い包括的な協定で、モノやサービスの貿易自由化だけでなく、政府調達、貿易円滑化、競争政策などの幅広い分野を対象としており、物品の関税は例外なく 10 年以内に撤廃するのが原則。

２－４　第６次総合振興計画の成果

第６次総合振興計画期間には、計画に掲げられた施策・事業を積極的に推進し、町民の暮らしの基盤となる道路や公共施設の整備、福祉サービスなど、町民生活の向上に努めてきました。

《第６次計画期間の主なできごと・取り組み》

年　月	内　　容
平成 19 年 3 月	政和小学校閉校
平成 19 年 11 月	一般廃棄物焼却施設新設
平成 20 年 3 月	新幌加内町史発刊
平成 20 年 11 月	朱鞠内湖淡水魚種苗生産供給施設落成
平成 21 年 9 月	町制施行 50 周年記念式典
平成 22 年 4 月	幌加内町が上川総合振興局の所管区域に変更
平成 22 年 4 月	地域情報通信基盤整備（IP 告知端末器他）供用開始
平成 22 年 12 月	幌加内トンネル開通
平成 23 年 9 月	北・北海道中央圏域定住自立圏締結
平成 24 年 4 月	小規模多機能型サービス事業所開設
平成 24 年 8 月	幌加内町そば乾燥調製施設竣工
平成 25 年 10 月	幌加内町農産物処理加工施設竣工
平成 26 年 10 月	幌加内町農産物低温貯蔵施設竣工

《第６次計画による生活水準の向上》

項　目		平成 15 年度実績	平成 25 年度実績
①町道舗装率（舗装済延長）		31.3%（90.0 ｋｍ）	31.9%（92.0 ｋｍ）
②下水道及び合併処理浄化槽の普及			
• 農業集落排水事業		加入率 87.7%	95.2%
	対象戸数（人口）	504 戸（1,141 人）	526 戸（986 人）
	供給実績戸数（人口）	442 戸（1,023 人）	501 戸（944 人）
• 合併処理浄化槽設置整備区域		普及率 58.7%	66.2%
	対象戸数（人口）	355 戸（918 人）	293 戸（637 人）
	供給実績戸数（人口）	197 戸（539 人）	194 戸（453 人）
③上水道普及率		95.7%	97.9%

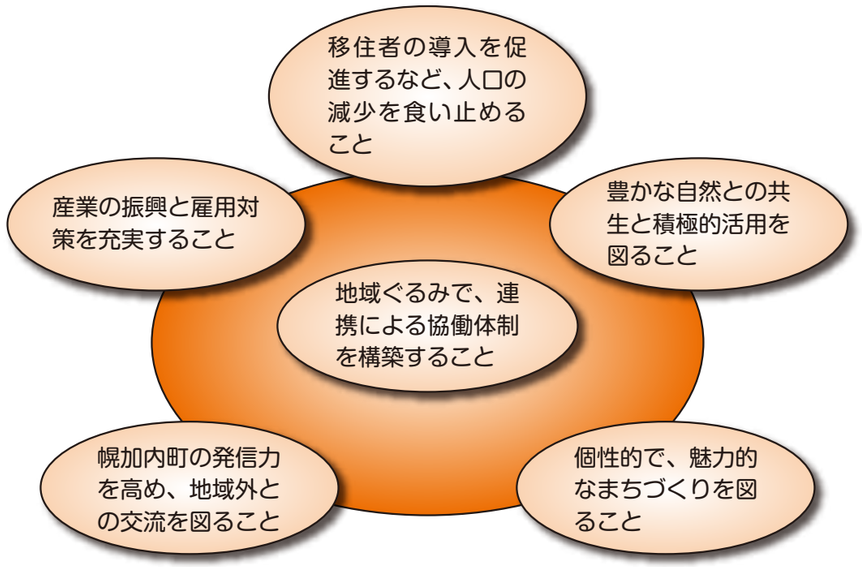
項　目	平成 15 年度実績	平成 25 年度実績
④公営住宅の整備状況		
• 管理戸数	294 戸	270 戸
• 用途廃止戸数	69 戸	48 戸
• 建設戸数	70 戸	24 戸
• 公営住宅供給率	約 32%	約 33%
⑤高齢者福祉在宅サービスの利用状況		
• 65 歳以上人口	668 人	618 人
• 高齢化率	32.47%	38.07%
• ホームヘルプサービス（延べ）	3,899 人	3,283 人
•（介護再掲）	(3,367 人)	(3,110 人)
• デイサービス（延べ）	3,320 人	3,092 人
•（介護再掲）	(2,588 人)	(2,998 人)
• 緊急通報システム利用（実世帯）	32 世帯	15 世帯
• 除雪サービス（実世帯）	25 世帯	31 世帯
• 配食サービス（延べ）【昼食（弁当）】	3,408 食	2,671 食
• 外出支援サービス（延べ）【送迎（通院、買物）】	512 回	881 回
• 布団乾燥サービス（延べ）【独居宅】	29 回	0 回
• 電話サービス（延べ）【安否確認】	780 回	422 回
⑥高齢者福祉ハード面の整備状況		
• 高齢者生活福祉センター「デイサービス」	1 ヵ所	1 ヵ所
• 高齢者生活福祉センター「居住部門」	15 世帯	15 世帯
• 老人福祉寮（福寿荘）	10 世帯	10 世帯
•　〃　（延寿荘）	6 世帯	6 世帯
• 保健センター	1 ヵ所	1 ヵ所
• 在宅介護支援センター	1 ヵ所	1 ヵ所
• ヘルパーステーション	1 ヵ所	1 ヵ所
• 訪問看護ステーション	1 ヵ所	1 ヵ所
• 居宅介護支援事業所	2 ヵ所	2 ヵ所
• 介護療養型医療施設（町立病院）	18 床	29 床
• 小規模多機能居宅介護事業所	－	1 ヵ所

２－５　これからのまちづくりの課題

これから 10 年間のまちづくりの課題は、次のように捉えることができます。

【基本的な課題】

今後のまちづくりの基本的な課題は、次の点であり、これらの課題は相互に関連しています。今後のまちづくりには、これらの課題に複合的に取り組んでいくことが必要となります。



【基本的な課題に対応した検討すべき視点】

①移住者の導入を促進するなど、人口の減少を食い止めること

○　住民福祉を高め、誰もが生涯安心して暮らせるまちづくりを推進すること
○　幌加内町の環境を求めてくる新住民の受け入れ環境を整えること
○　厳寒多雪という厳しい自然条件を克服しうるまちづくりを推進すること

②豊かな自然との共生と積極的活用を図ること

○　住民が自然資源の貴重性を理解し、その保全と活用を推進すること
○　自然環境に調和したまちづくりを推進すること

③個性的で、魅力的なまちづくりを図ること

○　農業科がある高校を活かした“そば教育”など、魅力ある環境を創ること
○　ソバの花など幌加内町独自の魅力ある資源、施設の整備を進めること

④幌加内町の発信力を高め、地域外との交流を図ること

○　幌加内町の環境（資質）を活かした観光・交流の展開を図ること

○　そば日本一など幌加内町ブランド化を推進すること

⑤産業の振興と雇用対策を充実すること

○　健康志向・環境にやさしい農産物と連携した６次産業化を推進すること

○　産業の振興による雇用の維持・就労の場の確保の取り組みを推進すること

これらの課題を克服していくための共通的な課題として『地域ぐるみで、連携による協働体制を構築すること』が挙げられます。それぞれの課題に対し個人の力では難しい事でも、住民ら相互による協力や支え合いによって克服できることが数多くあります。また、住民だけではなく、行政・教育機関・企業など幌加内町を構成するそれぞれの主体の協働体制をより強化することにより、新たなまちづくりへ向けた取り組みの基礎が形成されるものです。

第２編
基本構想